

AEDは ベストな手段 基本は心肺蘇生法

鳥取市立病院
診療部副部長(麻酔科)
あさお やすひろ
浅雄 保宏 医師



心臓が原因とされる突然死のうち、その85パーセントは心筋梗塞からなる心室細動によるものです。心室細動になると、心臓を動かす筋肉がけいれんし小刻みに震え、心臓本来の血液を全身に送り出すポンプの役目を失ってしまうため死に至ってしまいます。

この心室細動の治療法は、唯一心臓にAEDなどで電気ショックを与えること(除細動)ですが、その効果も時間が経過すれば低くなります。平成17年の県東部広域管内では、救急車が到着するまでに除細動が行われたケースはなく、救急車に搭載しているAEDを使用することができた傷病者は212人中28人。そのうち、1カ月後の生存者は7人という調査結果(表1参照)が出ています。このことから分かるように、いかに除細動を行うまでの時間を短くするかが命を救う鍵となります。

だれもが、AEDが使用できるようになったことで、AEDを設置している施設は増えていますが、あらかじめどの施設にあるのか確認し、知っておくことが大切です。ただ、AEDの普及率はまだ低く、いつでもすぐそばにあるとは限りません。基本は心肺蘇生法であり、救急車が到着するまで脳や心臓などのダメージを最小限にとどめ、命をつなぐことが一番大切です。



AEDを使った 応急手当の重要性

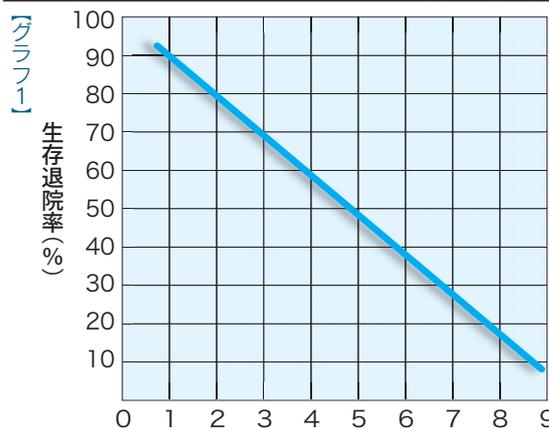
心臓の異常が原因で、突然倒れる場合は、心室細動(心臓が小刻みに震え血液を送り出すことができない状態)によるものが多いことが知られています。

人は、心臓が停止すると4分以内に脳障害が発生するため、心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)を直ちに行い脳障害の発生を遅らせるようにすることが、とても大切です。

しかし、さらに重要なのは、心室細動の状態を取り除き、早く正常な心拍に戻すことであり、その最も適切な処置を行うことができるのがAED(2ページ右下参照)なのです。

心室細動になってからAEDを使った除細動(「細動」を「除く」の意味)を行うまでの時間と生存退院率との関係はグラフ1のとおりですが、このグラフからわかるように、除細動が1分間遅れる毎に7割から10割の割合で、

心室細動の時間経過による生存退院率



生存退院率が下がります。

平成17年の調査では、東部消防局の救急車が現場に到着するまでにかかった平均時間は6・7分ですから、その間何もしないでいると生存退院率が30割以下になってしまいます。

このことから、いち早く心肺蘇生法と除細動を行うことの重要性がわかります。

応急手当は 適切な心肺蘇生法から

人が倒れ心臓が停止している場合は、AEDが近くにない場合、まず

は、気道の確保、人工呼吸、心臓マッサージなどの心肺蘇生法を行うことが応急手当の基本です。AEDによる除細動が適さない場合(AEDが心電図を解析し診断します)もあります。そのため、まず適切な心肺蘇生法を身につけ、そのうえでAEDを取扱うことができる傷病者を生存へ導く最も効果的な応急手当なのです。

平成17年 鳥取県東部広域管内除細動に関する調査

(鳥取県東部広域行政管理局消防局)

| 区分 | 人数 |
|-----------------------|------|
| 病院へ搬送した全ての心肺蘇生法施行傷病者数 | 212人 |
| AEDによる除細動施行傷病者数 | 28人 |
| 病院到着までの心拍再開者数 | 10人 |
| 1カ月後生存者 | 7人 |
| 1カ月後生存者のうち社会復帰者 | 1人 |